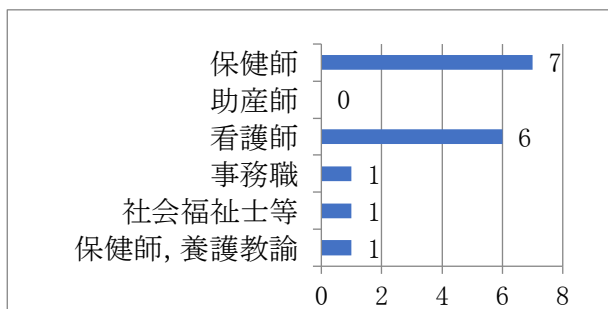


4. 3 職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会

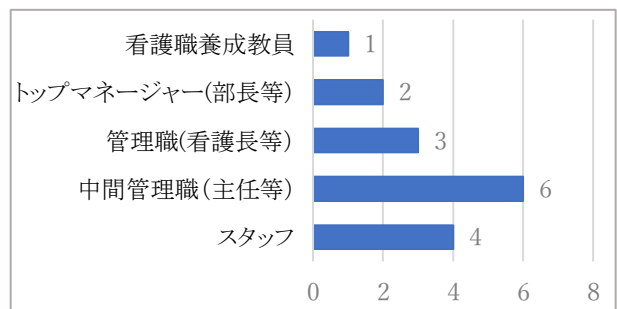
研修名	5 子どもの生きるいのちを育むいのちの教育を考える座談会	
開催日時	令和6年2月3日(土)	時間 9:00~12:30
受講者数	21名(会員:11名 非会員:10名)	定員 50名
ねらい	3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会のこれまでの取り組みを理解する。好事例から学び、次年度の学校でのいのちの教育につなげることができる。	
講師	話 題 提 供:関 正節(3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員長) 植田 章夫(須崎市 子ども子育て支援課) 松尾 まゆら(須崎市 健康推進課) 講師・アドバイザー:東京医療保健大学看護学科 教授 渡曾睦子	
内容 (キーワード)	性(生)教育・母子保健・職能別役割	座談会

1.アンケート結果 出席者:21名 アンケート回収:16名 アンケート回収率: 76.2%

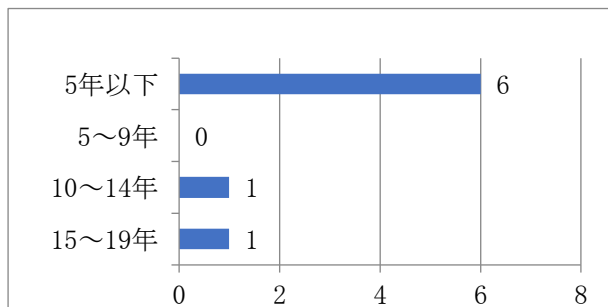
1) 職名



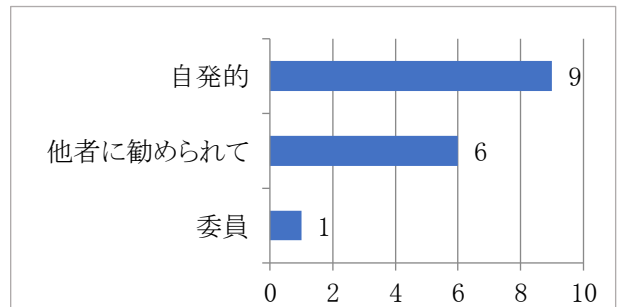
2) 職位



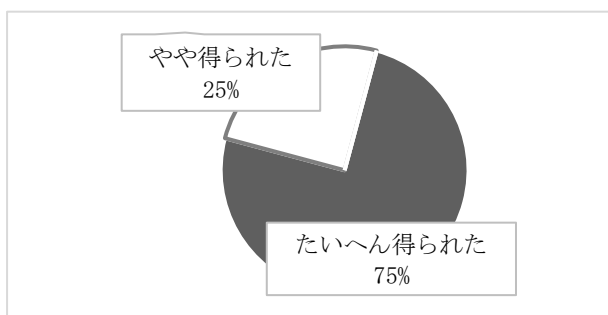
3) 経験年数



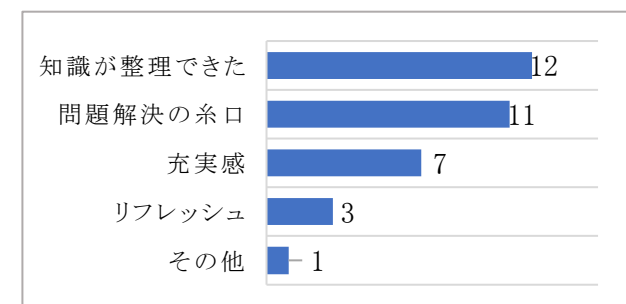
4) 研修参加動機



5) 今後の活動に活用できるヒントが得られたか



6) 全体的な研修の感想(複数回答)



2. 感想、意見

- ・ とても良い企画でした。
- ・ 地域診断の必要性を改めて感じました。
- ・ 須崎市の方の事例を聞いて自分の町でどう事務の方と話しを進めていけるかヒントを得ました。
- ・ 現場で支援されている保健師さんから私たちの知らない現状を聞かせていただき、行政がどのように取り組んでいるのかを知るよい機会となりました。
- ・ 須崎市の取り組みが凄いなと思いました。一つの出来事をきっかけに危機感から、行動を起こし成果を上げる事ができ、すばらしいです。
- ・ 実態を共有することで問題解決のきっかけとなった。
- ・ 今回初めて参加をしました。教育の変化や、現状を知ることができました。小学生、中学生で死にたいと思ったことがある数の多さと、その理由がとてもショッキングでした。看護師として出来ること、地域と繋がっていくことを考えていきたいと思いました。
- ・ 思春期保健の広義の意味を知り、この課題をクリアしていくような働きかけ大事であることを学べた。母子保健と教育現場の連携の方法や必要性をどう伝えていくか、企画の重要性について学ぶことができた。
- ・ 他職種の方と話しができて、自分の地域で事務職と上手く仕事をしていくためにも業務の整理が必要と思いました。
- ・ 広義の性教育が学べ、須崎市の具体的な取組も学ぶことが出来たので、有意義な研修となりました。
- ・ 須崎市の取り組みが教育委員会や保育も包括した取り組みになっていることに感銘を受けた。これまでなかなか教育委員会と協働する機会が少ない中、子どもたちが成長発達の大事な時期を過ごす、義務教育期間へのアプローチをさまざまな角度から考えることができた。現在、ひきこもり支援、不登校支援について検討するなか、子どもたちの生きる力をさまざまな分野と協働して支援していく重要性を痛感した。

3. 担当者のコメント

今回は、須崎市のいのちの教育、母子保健の取り組み報告を受け、グループでディスカッションを行い、全体で共有した。須崎市では、1つの事例を全庁で共有し、子ども子育てや学校教育に関わるコアメンバーによる地域診断から課題を明確にし、めざす方向性を打ち出し取り組んでいることに多くの参加者が共感した。また、親育ち、子育てを妊娠期から切れ目なく支援すること、自分、人、いのちを大切に作る力、親以外に理想とする家庭を学ぶ場として、保育園、学校、地域での取り組みから、今後の「3 職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会」の活動の示唆が得られた。